佐野松陽高校同窓会会報

平成22年3月1日
編集・発刊
栃木県立佐野松陽
高等学校同窓会
佐野市出流原町643-5
TEL 0283-25-1313

創立三十五周年を迎えて

同窓会会長　田中　博

同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。平成二十一年六月、母校も創立三十五周年を迎えました。一昨年来、アメリカのサブプライム住宅ローン問題の打撃により、証券市場、世界経済が揺れ動く中、リーマンブラザーズの経営破綻など世界同時不況の影響を受け、日本国内の企業業績にも大きな陰りが見えています。デフレ、円高、輸出の減少、原油原材料高、雇用削減など不安要因も多く、今まで以上に環境に配慮した独創性の高い商品開発やサービスを実用化すると共に、消費者の立場にたった努力が求められています。

そうした社会環境の中、ふと目にした新聞記事に母校の後輩達の活躍する様子を見付けると、うれしくなります。情報制御科のジャパン・マイコンカーラリー二〇〇九全国大会（札幌）出場をはじめ、商業科の「いもフライ」プロジェクト、陸上部の「ときめき国体（新潟）」出場、ソフトテニス部、ラグビー部、演劇部の関東大会出場など充実した高校生活を送っている事を知り、大変誇りに思っています。これからもご活躍を期待しています。

また、会長となり、学校行事や先輩、後輩の皆さん、同級生との同窓会にも出席させて頂き、多くの先生、同窓生の皆様とお会いする機会に恵まれました。在校生の皆さんの心身共に成長されている姿や、同窓生の皆さんの金融、経済、産業界をはじめ、あらゆる分野で活躍されている姿に心強さを感じました。そしてまた、時が経っても変わらない友情と、先生方の温かさを感じる事が出来ました。

新校設立への準備も始まり、また、学校への県の予算が減る中、今まで以上に同窓会で支援していかなければならない事も出てくると思います。しかしながら先輩が築き残してくれた資産を大切にしながら、これからも同窓会として、母校発展のために尽くして行きたいと思います。会員の皆様に事業報告をさせて頂きますと共に、これからも母校、在校生を温かく見守って頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。また、同窓会会報発刊にあたり寄稿して頂きました先生方、同窓生の皆様に感謝申し上げます。

同窓会会報の発刊に寄せて

校長　渡沼　廣司

同窓会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。この度、同窓会会報第三号が発刊されましたことは、会員の皆様と本校の相互交流と親睦をさらに深める意義深いものとして喜ばしいことであります。

さて、本校の近況ですが、生徒たちは「進取・創造・奉仕」の心を大切に、諸先輩の方々が築いた歴史と伝統をしっかり守り、松陽精神の下、学業・部活動にと情熱を傾け、県内・県外ですばらしい成果を修めています。特に、国立大学や有名私立大学への高い進学率と就職率、県内上位に位置する高い資格取得率、各種競技会での全国大会出場、さらに各部活動での県内上位入賞や関東・全国大会出場など、活躍には輝かしいものがあります。

また、顕著な活躍として、地域社会への貢献をめざして生徒が研究した松麺やいもフライソースの商品開発が、県内の生徒商業研究発表大会で優秀賞を授与されました。その後、商品がマスコミを通して、県内ばかりでなく全国に広がり、いもフライ体操とともに、産業学科の中で高い評価を得ることができ、大変誇らしく思っております。

今後もこれらの教育活動の実績を踏まえ、教職員・生徒が一丸となって本校の発展に努力していきたいと思います。

最後に、ご存知のとおり、本校は、平成二十三年度から、県教育委員会の「県立高校後期再編計画」に基づき、田沼高校と統合し、本校を校舎として、工業学科、商業学科、福祉学科、家庭学科の四学科、六学級をもつ、県南地区唯一の大規模総合選択制専門高校に生まれ変わることになりました。今、私たち教職員は、新たな歴史と伝統のある学校を作るべく、教育委員会はじめ佐野市内の有識者や同窓会の方々とともに開校に向けて、準備している所であります。

今後とも同窓会会員の皆様のご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

同窓会事業報告

トラクターの活用にあたって

情報制御科　川崎　龍哉

佐野松陽高校に赴任してきて初めに驚いたのは、グランドが広いことでした。野球に、サッカー、そしてラグビーができる広さには驚きました。今までの学校では、ここまでの広さはなく野球とサッカーが共に協力し合い助け合いながらグランドを使用していました。

最後のグランド整備にも人数も関係あるかもしれませんが、そんなに時間もかからずに終わりました。しかし、このグランドは思いっきり運動ができますが整備には時間がかかると思いました。ましてや、暑い日などは草も生えてきて大変だと思いました。

そんな時、同窓会から寄贈していただいたトラクターには本当に感謝しました。本来なら、グランド整備から草刈りまで生徒達の力で行わねばならないのですが、少しでも多く練習をするとなるとトラクターがあるのにはとても助かりました。

草刈り機などの、アタッチメントもつけてもらい野球部だけでなくサッカー、ラグビーなど他の部も活用でき大変感謝しています。

これからも、いつまでもトラクターを大切にしていくと共に自分達も、グランドを大切にしていきたいと思います。

佐野松陽高校と松

同窓会副会長　須藤　泰雄

『松原公園から佐野松陽高校内に続く環境林の松林』が卒業生の皆さんには、脳裏に焼き付いていると思います。しかし、その学校や校名のシンボルとしての「松」が残念なことに枯れ始めています。

同窓会事業の一環として、松くい虫駆除対策の消毒等懸命な保全に努めて参りましたが、一本また一本と被害に遭っています。そこで、創立三十周年の記念事業の平成十七年末に(財)日本緑化センターより、松くい虫対抗性アカマツ苗五十五本の配布を受けました。

同窓会役員が健やかな成長を願いつつ東側に五本、また毎冬目を開けられなかったほどの強い西風対策に西側土手に五十本の植林をすることができました。

その後、あまり枯れることなく順調に生育しています。

母校の歴史や生徒の成長を見守る番人（シンボル）が増えたことをご報告いたします。

AED設置について

体育科　石井　勝尉

同窓会の皆様におかれましては、日頃より運動部活動等、活性化に向けて特段のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

学校教育活動の中で、体育の授業や運動部活動等、心・技・体を鍛えることの重要性はご存知のことと思います。特に運動部活動においては、限られた施設、設備の中で、同窓会の皆様のご理解を得ながら日々努力しているところであります。ここで、子どもを預かる指導者として最優先に考えなければならない事は「生徒の安全」だと思います。安全に活動できる環境をつくって、子ども達に精一杯、思う存分運動させる事が学校の活性化にもつながると考えています。

さて、ＡＥＤについては、昨年度全県立学校に設置されましたが、本校においては同窓会のご協力によりそれ以前に設置される運びとなりました。現在、第一体育館に一台、本館玄関前に一台の合計二台が設置されております。ＡＥＤについては、設置はされても使用されない事が一番です。しかしながら、活動中、不測の事態が生じ、ＡＥＤを使用することになった場合は我々教職員が冷静に対処し応急処置を行うことが必要です。そのためには、今後、教職員を対象に講習会を実施し、使用方法について確認し正しい使い方ができるようにしたいと思います。

最後になりますが、「生徒の安全」確保のためにＡＥＤを設置していただきました同窓会に深く感謝し、お礼の言葉とさせていただきます。

「オリジナルソースのＣＭ作成」

商業科　樋口　友和

ちょうど一年前、毎年行われる生徒商業研究発表会の担当教員を任され、半年後の発表に向けて、今年の研究テーマを生徒十名と一緒に考えました。前回のテーマは、佐野名物いもフライを広めるべく「オリジナルソースといもフライ体操の作成」でした。私たちは、大好評だった先輩たちの活動を継承したいと考え、「オリジナルソースのＣＭ」を作成することにしました。研究の流れとして、①ＣＭの作成②ＣＭの放映③ＣＭの効果④今後の展開について、活動してきました。

ＣＭの作成については、まずＣＭについて研究するとともに、佐野ケーブルテレビのＣＭ担当の方からアドバイスを頂きました。それをもとに撮影をし、動画編集ソフトで三十秒以内にまとめました。撮影は思ったよりも難しく、二度の取り直しを経てＣＭを作成しました。また、編集作業も不慣れだったため、とても苦労しました。

次に、十一月のどまんなかフェスタでの販売をＰＲするために、十月から一カ月間ＣＭを流すとともに、佐野ケーブルテレビの「ミルン情報局」という番組でＰＲさせていただきました。テレビを通してのＰＲだったので、オリジナルソースの存在をたくさんの人たちに知ってもらえたと思います。

そして、三年目となる販売活動を行いました。昨年は百本の売り上げでしたが、今年は予定よりも多い三百五十本を売り上げることができました。本数の限定販売ということもあり、早い時間で完売という形となりました。また、来客した人のアンケートから「ＣＭがとても印象的で良かったです。」などのお褒めの言葉を頂き、ＣＭの効果は絶大だったと思います。

今後の展開については、このオリジナルソースを地元だけではなく、作成したＣＭをもとに県内に広めていければ良いと思っています。この活動に関わった全ての人たちに、感謝申し上げます。

ソフトボール部の活動

顧問　渡部　真弓

ソフトボール部は、毎日放課後の校庭で、部員全員が必死になってボールを追い、周りが暗くなり、ボールが見えなくなるまで練習を続けています。しかし、今年の夏に三年生二名が引退してからは、二年生七名、一年生三名の合計十名というぎりぎりの人数で活動をしています。ソフトボールはきついイメージがあるのかなかなか新入部員が入らず、苦労をしています。大会に向けて上位入

賞を目標に練習をしているのですが、なかなか勝てないのが現状です。今後も、一試合一試合を大切に悔いの残らない試合をしていきたいと思っています。

平成二十年度には、グローブなどの道具類を、平成二十一年度には固定ベースなどを購入していただき、ありがとうございました。同窓会の皆様から頂いたものを大切に使用していきたいと思います。そして、県大会で上位入賞ができるように部員全員一丸となって練習に取り組んでいきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

吹奏楽部の活動

顧問　中三川 和好

平成二十年度から部員も二十名を超え、本格的に活動を始めた。校内の活動としては、各学期の始業式終業式や創立記念式典、また入学式や卒業式での校歌の演奏（写真）を主としている。また野球部の夏の大会応援の時にも参加している。校外の活動としては、毎年九月に佐野で行われる佐野市吹奏楽祭（佐野市文化会館）と栃木県高文祭吹奏楽祭（九月宇都宮文化会館）に参加している。何曲も演奏するわけではないが、他の学校の演奏も聴くことができ生徒にはよい勉強の場ともなっている。また、地元での訪問演奏にも力を入れていく予定である。平成二十年十二月には、あかみ幼稚園にてクリスマスコンサートを実施した。吹奏楽ではトトロファンタジーや崖の上のポニョなどのおなじみの曲や園児の指揮者コーナーなども設定した。またピアノ三重連弾やミュージックベルの演奏なども取り入れ、楽しい演奏会になるよう企画した。平成二十一年七月には老人福祉施設『丹頂』にて納涼祭に参加した。曲目は海雪や時代劇スペシャル（暴れんぼう将軍や水戸黄門など）、演歌メドレー（北国の春や川の流れのように）などお年寄りが知っている懐かしいメロディを取り入れた。今後は訪問する場所をもっと増やし、演奏する機会を生徒に与えたいと考えている。県のコンクール関係では第一回県南地区アンサンブルコンテスト（H20・11・23）にサキソフォン四重奏で参加、銀賞をいただいた。またソロコンテスト佐野支部（H20・12・26）にAサキソフォン（早川瑞希）ピアノ（中里綾香）が参加した。

最後に楽器等の修理に同窓会より援助をいただき、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

恩師だより（1）

思いつくままに

元校長
宇賀神 文雄

同窓会会報第三号の発行に寄せて思いつくままに記したいと思います。

私は、平成十四年から十六年の三年間校長として勤務しました。その中での一番の思い出は創立三十周年という節目の年に立ち会えたことです。平成十六年十月三十日の佐野市文化会館での式典では、生徒たちが佐松生としての自覚を持って式典に臨んでくれたお陰で厳粛に執り行うことができ、当日は台風接近の荒れ模様の天気でしたが、天気とうってかわって晴れ晴れとした気持ちになったことを昨日のように思い出します。

純朴で素直な生徒たち、生徒たちを思い、常に生徒の目線に立って教育にあたる先生方、その教育を温かく支援してくださる同窓会、PTAの方々に囲まれての勤務は、三十六年間の教員生活の中でも充実感に満ちたものとなり、短い勤務ではあったにも拘わらず、今でも佐松高への思いは強く、妻の実家（犬伏）に行く時には必ず遠回りして佐松高の前を通り、校舎をしばし眺めていくことを常としています。

今後、佐野松陽高校は高校再編により、学校の規模と教育内容が一部変わりますが、卒業生が今まで築いてきた伝統を基盤に新しい伝統を積み重ね、地域に根ざした学校として更に発展していくことを願っております。

防球ネット設置について

授業や部活動を安全に行うために、同窓会より寄付を行い、県有設備として新たに普通棟南側に防球ネットを設置し活用してもらうことになりました。これからも在校生の為に支援をして行きたいと思います。

完成イメージ

中国訪問記

前校長
福田 英雄

私が勤務しました三年間の内、同窓会の御援助により実施しました中国訪問について、皆様にご報告させて頂きたいと存じます。

訪問は平成十八年十月三十日から十一月三日まで四泊五日の日程で実施しました。北京オリンピックを間近に控え、経済成長期とも重なって、到着した上海はビルが林立し車が所狭しと走り回り、まるで東京にでも居るかのような錯覚を覚えました。夜の十時頃訪問校に到着しましたが、門番が校門に常駐し電動で校門を開閉するのを見て、中国は教育に莫大な投資をしていることを身をもって実感致しました。また、敷地内にホテルがあり、公式の大会が実施できる陸上競技場が備わっていることにも驚きを禁じ得ませんでした。百聞は一見に如かずと申しますが、私自身中国に対して認識を改めました。教育方針や授業参観を通して中国の教育事情の一端を垣間見たに過ぎませんが、国を発展させるためには教育に金を惜しんではならないと痛感しました。訪問した生徒達にとっても大きな刺激になりました。今後もこの交流を継続して頂ければ幸いと存じます。

最後になりましたが、田中博同窓会長様には常に深い愛校心のもと温かい眼差しで在校生に接し、また同窓会の発展に心血を注いで頂き、改めまして厚く感謝申し上げますと共に、今後田沼高との統合により、佐野松陽高が益々発展することを祈念致しております。

恩師だより (2)

「佐商」と「佐松」に勤めて

学悠館高校
山本 芳樹

佐野生まれ、佐野育ち。都内の大学を出るとき職業選択に迷い、就職活動をして二社から内定をもらったが、何となく高校教師の職業を選んだ。いわゆる、でもしかだ。採用は県北の高校で、もう県北に永住してしまおうかなと思っているときに、佐野商業高校に赴任した。倉持校長の校長講話は素晴らしかった。聞いている生徒達から、自然に拍手が出たのだ。先生方の年齢も若く、いかに学校を良くするかいつも相談していて、青春している学校だった。

地域に工業科をという要望で、佐商から佐松になった。工業科が設置されて、雰囲気や教員構成が変わり、学校が新たに生まれ変わった。別の高校になった。工業科の先生方の実習に対する姿勢は素晴らしかった。情報制御科も随分といい学科になった。

佐松の生徒の多くはまじめで素朴だ。また学校が変わっても、将来を見つめ、自分の人生の基礎作りをしていって欲しい。

木々の色も

栃木農業高校
家富 秀和

平成二十一年三月を以ってこの松陽高校で定年退職いたしました。

思うに、私にとっての最後の教員生活を過ごすことができた時間はとても充実したものになりました。最後の担任として、また学年主任として多くの先生方に支えられて全うできたことが、この上ない幸せと思っております。勿論、この間を振り返ると様々なことが頭の中に去来します。中でも特にここ佐野松陽高の自然環境の良さ、美しさは今もって心に深く刻み込まれています。それは四季折々に織りなす美しき自然の彩色は県下でも指折りに入るのではないでしょうか。

在職中、暇を見つけては時折、学校の東側に流れる旗川の清流にほだされ、川面を眺めながら散策などをし、周りの自然を体一杯に満喫して思索にふけることのできる環境を喜んでおりました。

とりわけ、三月から四月にかけて明るいピンクの桜花の饗宴、そして校庭の前の里山の新緑、またその中で声高らかにさえずる鶯の宴、また、松の木々の間を吹き抜ける松籟の爽やかさ、校庭では暑い中での運動の後の生徒たちに木陰を作り、疲れを癒してくれる栃の木々や、百合の木々たち、まだまだその他にも人の目に触れることのない木々の存在があります。その中でも、私にとって強く印象に残っている樹木は染井吉野よりやや遅く咲く中庭にある二本のしだれ桜一どことなく頼りなく優柔不断のように見えて、しっかりと花を咲かせながら、存在を自己主張している姿がいいのです。それと中国衢州市との友好に因んで植樹された孔子ゆかりの櫂の木一秋には一部の葉が、いち早く紅葉し、その美しさと特徴を極めています。このように学校の周りには私たちの心を和まし、勇気づけてくれる自然が満ち満ちています。そんな変化の移り変わりの中であっという間に在職五年が過ぎ、定年を迎えました。私にとって、この環境と素晴らしい先生方と生徒たちに囲まれての教員生活の集大成ができたことは本当に幸せであったと今、実感しております。感謝、感謝に尽きる年月でした。

佐野松陽高校の思い出

足利工業高校
佐山 博史

創立三十五周年おめでとうございます。本校に五年間お世話になりました。短い間でしたが、現在も多くの卒業生をお見掛けする機会があります。特に、各方面で活躍されている姿や高い評判を耳にすることが、何よりも嬉しく思います。思い返せば、情報制御科の担任となったことが、まず挙げられます。個性豊かな生徒たちに恵まれ、球技大会や運動会、学校祭などでは、好成績を残し、大いに盛り上がりを見せたクラスでした。卒業までには、楽しいことばかりではありませんでしたが、トラブルが生じても、クラスの結束力や周りの先生方からの支えで、無事に卒業式を迎えられたことが懐かしく思い出されます。また、部活動では硬式テニス部顧問として、放課後や休日に生徒たちと、夢中になって汗を流したことが強く印象に残っております。いずれも多くの同窓会の皆様と関われたことが、私の財産の一つです。最後に、同窓会の皆様のご活躍をお祈りいたします。

OBだより

開校当時の思い出

第二回卒
松下 正寿

ついこの間のように思える高校生活も、気がつけば三十数年前となってしまいました。

数多くの思い出の中で、特に鮮明に想い出すのは、初めて「佐野商業高校」に登校した時のことです。二年生に進級する春休み、新しく開校する母校に向かって自転車を走らせた時のワクワクした気持ちは、今でも忘れられません。まだ、校舎が二棟あるだけで、体育館もプールもありませんでした。まさに一からのスタートだなあと思いつつ、教室に机と椅子を運び込みました。新生活に不安もありましたが、それ以上に母校の歴史を築く使命感と責任感を強く感じました。

もう一つ思いだされるのは、開校二年目に開催された学校祭です。我々三年生が中心となり、文化部、運動部、クラスでの参加をしました。生徒全員が一丸となって協力し、大成功に終わりました。後夜祭の時のキャンプファイヤーが印象的でした。天高く燃え上がった炎は、我々の情熱のようでした。

校長先生、教頭先生との再会

第四回卒
小貫 茂雄

創立三十五周年を迎え心からお祝い申し上げます。私も思い起こせば、卒業してから既に三十二年の月日が経過いたしました。現在は、会計事務所において会計の仕事に携わっております。私が佐商高へ入学した当時の校長先生は、宮杉利雄様、そして、教頭先生は、新村武志様でした。一般的に高校生活において、校長先生や教頭先生との接点の機会は本当に数少ないものであります。ですから正直言って、記憶の中の存在は薄